

オーガニック給食で有機農業の推進

「ほんまもん農産物」を学校給食に提供する臼杵市

日隈市議は6日、臼杵市が土づくりセンターでつくる堆肥を活用する「ほんまもん農産物」の生産振興と学校給食への提供体制を確立していることを紹介。オーガニック給食をめざした有機農業の推進を提案しました。

日隈市議は、堆肥の生産と土づくりの現状を質問。農林振興部長は「畜産農家で飼われている牛と豚の頭数から計算すると、約17万5千トンの糞尿が堆肥化されている。畜産農家や耕種農家、県や市、農協などをつくる日田式循環型農業推進協議会が畜産堆肥を活用した土づくり、減農薬、減化学肥料などによる環境負荷を減らした循環型農業を進めている」と答えました。

日隈市議は、有機農業を推進し、学校給食への提供体制を確立している臼杵市の取り組みの評価を質問。農林振興部長は「令和5年度に給食センターに供給された『ほんまもん農産物』は野菜の全供給量の24%。販路が大きな課題のひとつである有機

の医療費助成を実施していれば、市の負担増は約2千万円。年間予算のわずか0・05%と市の財政的な負担は大きいとは言えない」と、来年度から高校生までの医療費助成を実施するよう求めました。市長は「来年度予算に向けて現在、協議している。子育て世帯への支援については施策が多岐にわたることから、全体の財源を見ながら、その優先順位を考える」と、実施を確約しました。

農業者にとって安定的な販売先につながる。臼杵市の有機農業生産者は、平成23年の15戸から令和3年の67戸へ、有機農業生産面積は19ヘクタールから89ヘクタールへと着実に増え、先進的な事例として評価している」と答えました。

臼杵市ほんまもん農産物は、市場価格の5割増しで買っています。財源は、農林水産省の「みどりの食料システム戦略推進交付金」です。日隈市議は「農家の手間に対する価格問題を解決している。日田市でも農家に協力してもらい、学校給食への提供体制をつくる手立てはあるのではないかと質問。農業振興部長は「日田市の有機農業者は4名で栽培面積3・3ヘクタール。今年度は、生産者、農業振興課、学校給食課で意見交換を行っている」と答えました。

12月議会
一般質問



▶オーガニック給食をめざした有機農業の推進を求める日隈市議

高校生も対象にと迫る

子ども医療費
助成制度

高校生の医療費助成をしていないのは日田市だけ

日隈市議は6日、大分県が今年度から高校生年代を助成対象に加え、日田市以外の17市町村が高校生までの医療費助成を行っている」と指摘。市長に来年度からの実施を迫りました。

日隈市議は、高校生までの医療費助成について、県との協議内容、市の対応を質問。市長は「昨年10月に県が来庁し、高校生の医療費助成を統一の取り組みとして実施したいと提案があった。日田市は高校生の医療費より、市の負担が多く発生している小中学生の通院分を補助対象にしてほしいと県に求めた」と答えました。

日隈市議は「今年度から県の助成事業を活用して高校生まで

の医療費助成を実施していれば、市の負担増は約2千万円。年間予算のわずか0・05%と市の財政的な負担は大きいとは言えない」と、来年度から高校生までの医療費助成を実施するよう求めました。市長は「来年度予算に向けて現在、協議している。子育て世帯への支援については施策が多岐にわたることから、全体の財源を見ながら、その優先順位を考える」と、実施を確約しました。



▶市長に高校生までの医療費助成を求める日隈市議(12月6日)